

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	保育者論	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・1
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	206教室
学修分野			
授業目的 ※	保育のプロとしての自覚を持ち、変化に富んだ時代に対応できる姿勢を持ちながら、多様な可能性を秘めた幼児理解ができる資質の育成を目指す。		
到達目標	日々成長する幼児の姿をどう理解するか、の方法を伝授する。と同時に保育者として幼児の成長を支援する方法も伝授する。その際、本学DP・CPIに鑑み、建学の精神である「敬天愛人」の理念を理解させ、深い子ども理解と使命感を備えた保育者の育成である。		
授業内容 授業形態 ※	講義だけでなく、毎回具体的な事例を示しながら学生と議論を積み重ねる。ここでコミュニケーション力を育てる。また、授業後に今日の授業のエッセンスをまとめてもらう。と同時に授業に関する質問を書いてもらう。次の週に私の方から質問に答えていく双方向の授業を展開する。同時に、ワークショップを取り入れることから学生たちの質問力とプレゼン力を身につけさせる。そうすることで、主体的で対話的で、深い学びにつながっていく。 疑問点をそのままにしない授業を展開する。疑問点はすぐにスマートフォンで調べてもらう授業形態を取る。とにかく疑問点をそのままにしないで検索させる。これまでの聞くだけの授業でなく、自ら問いを作る授業を目指す。と同時に、振り返りカードを提出させて理解の定着を確認する。		
評価方法 ※	レポート、授業での発言等を目安にする		
評価基準			
テキスト	教科書はとくに指定しない。参考書は適宜に、紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	Issues in Second Language Acquisition		単位数 ※ 4
開講学期 ※	前期	曜日・時限 ※	火・1時限、木・4時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>"This course provides students with an overview of theories and issues related to individual differences (IDs) in second language acquisition. It will begin by considering some of the background, theory, and classifications useful to understanding IDs. Age, as a widely-recognized factor, will be reviewed. Then, a range of IDs in second language learning will be described, based on research. These include cognitive, motivational, and affective variables which influence outcomes for all learners. Lastly, challenges that only some learners face, such as dyslexia, will be introduced. Course participants will enhance their familiarity with concepts, theories, and empirical findings through in-class discussion and quizzes. They will also propose and undertake a project on a topic of their own interest, which they will report on orally and in writing.</p>		
到達目標	<p>Student learning outcomes Students in this course will:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Consider their personal understanding of ""self"" by sharing a definition of it 2. Broaden their academic reading ability by reading a variety of authentic materials (e.g., encyclopedia articles and interviews) 3. Check their understanding of these reading materials using online quizzes 4. Build their communication skills by responding to questions about the course material during discussions 5. Develop their English vocabulary, based on course readings and discussions 6. Acquire familiarity with major strands of IDs research, including cognitive, motivational, and affective facets 7. Engage with a specific topic in IDs by planning and conducting their own research on a topic related to the course 8. Improve their overall academic skills by reporting on their research orally and in writing" 		

授業内容 授業形態	
評価方法 ※	1. Discussions 20% 2. Unit quizzes 20% 3. Project proposal 15% 4. Project summary 10% 5. Project report 15% 6. Project paper 20%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代スペイン文学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・1時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>Conocer las características fundamentales de la literatura española en cada periodo histórico-literario.</p> <p>Conocer a los escritores y obras más importantes de cada época.</p> <p>Reconocer las particularidades de las obras que se analicen en clase.</p> <p>Aprender a comentar de manera adecuada un texto literario.</p> <p>Adquirir los conocimientos básicos para hablar de literatura española en cualquier situación comunicativa.</p>		
到達目標			
授業内容 授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	<p>Las calificaciones de la asignatura se obtendrán a partir de los siguientes porcentajes:</p> <p>Asistencia y participación: 20 %</p> <p>Trabajo: 40 %</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	日本近代史	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・1時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要> 現代社会に地球市民として生きる私たちは、日本と世界の関わりがいかにあったかを常に意識し、理解することが求められます。それは、ビジネスを始めとする多くの場面において、コミュニケーションを図る上で最も重要な知識の一つです。本講義では、その一助となるために、明治維新から太平洋戦争までの日本史を、世界史（国際関係史）、主として東アジア史の中に位置づけながら、国内政治史に留意しつつ様々な外交事象から詳解します。研究史や最新の研究動向にも言及しますが、日本史の知識が十分でない受講生のために、歴史用語等の説明も十分に行います。</p> <p><授業の目的と到達目標> 歴史学的なアプローチによって、我が国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を目指します。</p> <p><必要な準備学習> 事前学習は、配布された次回レジュメ資料（1週間前に配布予定）を精読し、指定されたキーワード（歴史用語）について、文献やネット検索などを利用してまとめてください。授業では、ポイントをメモしながら聴講し、レジュメとメモを参照しながら復習（事後学習）をしてください。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		

評価方法 ※	授業内ワーク（課題、リアクションペーパー等）60%、期末試験40% <input checked="" type="checkbox"/> 験の詳細
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	トレーニング科学	単位数 ※	2 単位
開講学期 ※	前期	曜日・時限 ※	火曜日 2 限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	トレーニング科学は、健康増進から体力強化、スポーツ愛好家から競技者、子どもから高齢者まで、目的や年齢の異なる幅広い人を対象とした学問です。		
到達目標	運動専門家に必要とされるトレーニングの基礎知識を習得し、幅広い対象者に対してトレーニングの指導・助言ができるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	<p>毎回テーマを設けて授業をします。</p> <p>また、学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリートの競技力向上 ・スポーツ愛好家の健康増進 ・子どもの体力・運動能力向上 ・高齢者の介護予防 		
評価方法 ※	定期試験60%、レポート・受講態度など平常点40%とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	基本的にはプリントを配布します		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	観光ビジネスⅠ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜 2時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	401
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	観光は旅行業、宿泊業をはじめとして運輸業、飲食業などいろいろな産業と関連して地域の雇用創出に役立っています。千葉県には全国トップの観光施設である東京ディズニーリゾートや国内外から多くの人が集う幕張メッセなどがあります。観光による地域活性化に取り組んでいる事例を見ながら観光の現状を学びます。		
到達目標	①地域活性化事例から現状の観光ビジネスを理解する。 ②観光ビジネスの具体的なイメージを持ち、進路決定に役立てる。		
授業内容 授業形態 ※	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 千葉県観光の現状</p> <p>第3回 日本の観光振興状況</p> <p>第4回 グリーンブルーツーリズム</p> <p>第5回 産業インフラの効果（1）</p> <p>第6回 産業インフラの効果（2）</p> <p>第7回 観光資源（1）</p> <p>第8回 観光資源（2）</p> <p>第9回 国際観光（インバウンドの効果）（1）</p> <p>第10回 国際観光（インバウンドの効果）（2）</p> <p>第11回 地域の活性化事例（1）</p> <p>第12回 地域の活性化事例（2）</p> <p>第13回 観光ビジネスで働くこと</p> <p>第14回 ホスピタリティマインド</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 ※	テスト（40%）、レポート（40%）、授業への取組み能動性（20%）を総合的に評価します。		
評価基準			

テキスト	授業時に資料等を配布します。
注意事項	(予習) 次回の予告に基づき、資料や新聞などを読む。 (復習) 配布した資料などを理解し、レポートや課題を提出する。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cdbl=19 15

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	地域政策論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 前学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-101
学修分野			
授業目的 ※	地域で起きている問題に対して、地域システムの形成原理の理解のもと、地域政策の展開について学ぶ。地域政策の課題における自分なりの解決策を提示できるようになる。		
到達目標	<p>地域で起きている問題について、地域システムの形成原理のアプローチをもとに、対応策を考えられるようになる。また、変化する課題に対して、自分なりの仮説を持つことができるようになる。</p> <p>授業内試験では上記の点について問う。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>教科書に基づきながら、地域政策の対象地域、目的、手段、政策主体の変化について理解する。地域で起きている現状の課題を理解し、対応策を考えられるようになることを目指す。事例の紹介や例題を元に理解を深める。その際にはアクティブラーニングの手法を用いる。学生の理解に応じて授業内容は変更することがある。</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。</p> <p>【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。配布プリントを元に地域政策の考え方を理解する。複雑な演算においては各自の電卓を利用する。各自、ノートを用意し、必要な内容を書き留めること。</p> <p>【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。一回目の授業で少人数のグループを作る。授業の中で設定する課題に対して、グループワークを行う。時には発表も求める。配布プリントを元に地域政策の考え方を理解する。複雑な演算においては各自の電卓を利用する。各自、ノートを用意し、必要な内容を書き留めること。</p>		
評価方法 ※	レポート・発表、授業内試験により総合的に評価する。		
評価基準	レポート・発表 (60点)、授業内試験 (40点) により評価する。		
テキスト	ISBN：9784502180217, 「地域政策」(ベーシック+)、山崎朗：杉浦勝章, 中央経済社(発売：中央経済グループパブ), 2016年		
注意事項	予習・復習を欠かさないこと。試験規定に基づく。		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	生物学ⅠA	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・2時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>人体各器官の構造とはたらきについて理解する（病院や医務室のポスター内容が理解できる程度まで）。次いで動植物の細胞の構造と機能、特にエネルギーの獲得方法などについて理解を深め、「呼吸」「摂食」「光合成」「細胞の進化」の相互関連を理解する。</p> <p>◎対面、数回オンデマンドを挟む。ただし感染状況によっては、全面オンライン（オンデマンド）に変更することがあり得る。初回講義はZOOMで行う。資料はGoogle Classroomで配信する。対面講義が可能な場合は、途中で何回か、学生参加による「生物学演劇」を行って理解を促進する（感染状況によっては、朗読版の配信を行う）。期末試験は（現段階では）対面を考えているが、オンライン提出にする可能性がある。また対面の試験となった場合にも、対面が無理な学生に関してはオンライン提出の相談に応じる。</p> <p>◎必要な準備学習 講義の後、その日のうちに直ちに復習することが望ましい。日数がたつほど記憶への定着が悪くなるからである。「分かるまで」、あるいは「分からない部分が分かって質問できるようになるまで」復習すること。</p> <p>講義時間外に、目黒にある国立科学博物館附属自然教育園での観察会を行う。もしくは上野の国立科学博物館にて展示の見学をする。この課題については初回講義の資料で詳しく説明する。</p>		
到達目標			

<p>授業内容 授業形態</p>	<p>人文系の学生でも「生物としての人間」という視点を持つことは重要である。どのような職業に就こうと、ヒトは生涯のうちにほぼ必ず病気をし、老いる。若いうちに生物学の知識を身につけておけば、自分と家族の健康を守るために必ず役に立つ。言うまでもなく、人体や細胞の構造に関する知識は世界共通であり、どの国で働く場合にも、自分の健康を守るために大いに役立つはずである。また、後半に取り上げる光合成について知ることは、世界の環境問題を理解する上で重要である。</p> <p>実利的な面以外にも、「私の身体は（細胞は）こんなすごいことを毎日やっていたのか！」と気付いてもらえればうれしい。</p> <p>対面</p>
<p>評価方法 ※</p>	<p>定期試験、講義外課題のレポートを総合して評価する。詳しくは初回講義の資料にて。</p>
<p>評価基準</p>	<p></p>
<p>テキスト</p>	<p></p>
<p>注意事項</p>	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
<p>授業シラバス</p>	<p></p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	スペイン文化研究Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・2時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>In this course, along with the history of Spain, we will gain an overall view of the culture that has contributed to Spain worldwide, from more important perspectives such as literature, painting, architecture and history.</p> <p>この講義ではスペインの歴史に沿って、スペインが世界的に貢献してきた文化を文学、絵画、建築、歴史などの、より重要な観点から全体像を掴んでいく。範囲が広く、また題材も豊富であるため、時代ごとに最も重要だと思われる人物をとりあげる。文化的な知識はもちろん、スペイン語の知識を広げることも重要な目的である</p> <p><授業の方法> 講義内容はノートに板書する。また学期中最低1回は各自あるテーマについて研究し、他の学生の前で解説を行なう。</p> <p>The purpose of these lectures, in the first semester, is to try to understand Spanish history and the contribution of Spanish culture to world culture, particularly in the fields of literature, painting, architecture, the history of the three cultures: Christian, Muslim and Jewish, and the discovery of the New World.</p> <p>A significant subject will be to study the most important figures of Spanish history and culture. Of course, our main objective of learning Spanish culture will be to widen our knowledge of the Spanish language.</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		

評価方法 ※	2 presentaciones y un examen final obligatorios. La nota final se calcula por la participacion activa, el cumplimiento satisfactorio de las tareas y la nota de las presentaciones y el examen final
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	メディア文化論ⅠB	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・2時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>〈授業の概要〉</p> <p>日本映画全盛期の1958年、年間11億人が映画館を訪れました。現在は、年間約2億人程度です。どうしてこのような数字の開きがあるのでしょうか。それは、1958年当時は、テレビがまだ大衆化していなかったからです。このように、メディアを歴史的な観点から学ぶことによって、新しい発見と驚きがあります。本講義は、「メディア文化」に関わる事象について様々な観点から学びます。扱うトピックは、メディアの効果、メディアの歴史、現代社会とインターネット等様々な領域に及びます。いずれも、皆さんの日々の生活に密接に関わっている事象であり、そうした事象を科学のレンズで捉え直してみることで、現代社会を観察し、その中で生きていく力が身につくでしょう。授業は講義形式で行い、毎回簡単な授業内課題を課します（講義60分+授業内課題30分）。</p> <p>〈必要な準備学習〉</p> <p>予習：授業で扱うトピックについて、自分なりの考えをまとめておく。</p> <p>復習：授業の配布資料を振り返る。</p>		
到達目標	<p>①メディア文化について豊かな教養を修得し、国際社会に貢献する。</p> <p>②メディアが政治・経済・社会・文化に与える影響について、広く深い専門知識を身につける。</p>		
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	授業内課題や授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。		

評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	健康科学概論 (α h)	単位数 ※	2
開講学期 ※	前期	曜日・時限 ※	火曜 3時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	204
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。		
授業目的 ※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んでいきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何か？どのような状態をさすのかを理解する。 ・食事、運動（含む外傷、予防）、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 ・健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 オリエンテーション、健康とは/ W.H.O.の世界保健憲章（前文）に見る「健康」</p> <p>第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。</p> <p>第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素</p> <p>第4回 様々な指数 (1)/ BMIによって何が評価できるのか。指数を算定・評価します</p> <p>第5回 様々な指数 (2)/ カウプ指数、ローレル指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します</p> <p>第6回 様々な指数 (3)/ ブリンクマン指数によって何が評価できるのか。指数算定・評価します</p> <p>第7回 水分補給量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します</p> <p>第8回 身体の構造と機能(1)/ 骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます</p> <p>第9回 身体の構造と機能(2)/ 神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます</p> <p>第10回 運動（スポーツ）外傷(1)/ 運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第11回 運動（スポーツ）外傷(2)/ 運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第12回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます</p> <p>第13回 健康な生活設計/薬物、アルコール、たばこと健康について学びます</p> <p>第14回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます</p> <p>第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います</p>		
評価方法 ※	<p>小テスト（40%）、提出物・課題（40%）、授業への取り組み（20%）</p> <p>※提出された提出物・課題・小テストは、授業内で返却します。なお、コメントカードなどで頂いた質問は、次回の授業冒頭で紹介、返答いたします。</p>		
評価基準			

テキスト	教科書の指定はないが、毎回資料を配布する
注意事項	■予習 具体的な準備学習内容は、前時授業内で次回のレジメを配布し詳説します。 想定予習時間：120分
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cdbl=3200

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代英文法B	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・3時限 金・3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>英語を客観的に観察する目を持って、「英語の実際の姿」をできるだけ体系的に捉えていく。高校までに習得した文法事項を「『木』を見て『森』を見ない」ような断片的知識の寄せ集めのままに終わらせないように、より大きな視野で英語の構造を観察する。一方で個々の単語が実際にどの様に使われているのかを学び、正確な文法知識を身につけることも目標にする。授業ではテキストで学んだ文法事項を実際の「ニュース記事」や「映画のセリフ」などで確認し、またできるだけ多くの練習問題を行う。このようなプロセスで「正確な文法知識を身につける」、また「正しい英文を作る能力を養う」ことを目指す。様々な授業で触れる英語、また学外で読んだり耳にしたりする英語から、「自分自身で英語の使用実態を学び取っていく力を培う」ことも目標とする。これから先、少なくとも学生時代の間は英語に触れることが多いはずであるが、その英語を『読み流す、聞き流す』のではなく、せっきくの英語のインプットから自然な単語の使い方、正しい構文の組み立て方を確認し、自分のものにしていく『文法感覚』を養うことも目指したい。授業は「講義」と「グループワーク」の両方を含む。特に例文の意味の確認や、問題の答え合わせは基本的にグループワークで行う。授業は対面形式で行われる。ただしゴールデンウィークの期間は対面授業が行われなため、オンラインの授業となる。なお授業の進捗状況により、スケジュール等が適宜変更されることもある。毎週（＝授業2回につき1回）、その週に学んだ文法事項の復習を兼ねた『宿題』を出す。</p> <p>◎「英語学概論」を履修済みであることが、この科目の「履修条件」となっている。なお、「学生便覧」に記されている通り、全ての講義科目は授業時間の倍の時間の自宅学習が必要とされる。「現代英文法」も、毎回の授業（90分）について、180分（＝3時間）の自宅学習が必要である（『宿題』を行う時間、『試験勉強』をする時間を含む）。</p>		

到達目標	
授業内容	
授業形態	対面
評価方法	<p>【成績評価】</p> <p>以下を総合的に評価する。</p> <p>試験（85%）</p> <p>平常点（授業への貢献度等）（15%）</p> <p>※ 『宿題』 への取り組みも平常点の中で評価される。</p> <p>※ 色々な学生とグループワークを行う際の「協力する姿勢」も平常点の中で評価される。</p> <p>≪試験未受験≫、≪宿題など未提出≫の場合は、「不可」となる。</p> <p>≪無断欠席≫が2回以上ある場合、「不可」となる。≪欠席≫は減点。</p>
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	このコースの主要な目的は、マス・コミュニケーションの原理を知り、様々を伝達手段におけるコンテンツの研究を通じて、スペイン語圏の文化的背景と現状に関し意見を考え述べることである。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	レポート（定期）および発表: 40 % 予習、課題および授業への参加: 30 % 終レポートおよび最終発表: 30 %		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	応用言語学A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要></p> <p>応用言語学は、日常生活や社会における言語に関連した様々な問題を扱い、問題解決に取り組む学際的な学問である。その概論となる本講義では、言語と教育の有機的な関係を念頭に置き、文法、語彙、四技能の習得、教室談話、社会言語学、心理言語学、言語評価等様々な研究を概観し、応用言語学の基礎知識を身に付けていく。同時に、履修者は、自身の日常生活においてことばが関係する諸問題を解決・改善する方法を考え、言語意識を高めることで、国際社会に貢献できる教養の育成を目指す。主に英語を対象言語とした研究を扱うが、本講義から得る知識や知見は他の言語の教育・学習にも応用できるであろう。</p> <p>将来、英語教育やその他外国語教育に携わろうとしている学生や日常生活におけることばの役割に興味のある学生を対象とする。</p> <p><授業形態></p> <p>協調・協働を重視する。毎回の授業で、前回授業の内容の復習ディスカッションから始め、そこから新しい内容の講義を始める。リーディングの内容は、グループで担当個所を決め、他のグループに説明するジグソーリーディングを行う。</p> <p><必要な時間></p> <p>予習：教科書や指定された論文を読む（2時間）</p> <p>復習：毎回の授業について内省文を書く、主要概念の整理（2時間）</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の基本的な性質を理解する。 ・応用言語学の基本的概念と理論を理解する。 ・日常生活、特に教育現場におけることばの役割に関する理解を深め、問題の解決や改善に取り組むことができる。特に、自身の外国語学習・教育を見直し、評価し、改善策を考えることができる。 		
授業内容			
授業形態	対面		

評価方法 ※	リフレクション（20%）、中間試験（30%）、 口頭発表（20%）、期末レポート（30%）
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	東アジア政治経済論 I B	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	東アジアは経済で世界をリードする一方、対立も激化しています。日々の国際ニュースをもとに今日の東アジアの争点を政治、外交、経済、文化などさまざまな視点で学びます。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	期末試験、またはプレゼンテーションとその内容に基づくレポート。 授業中の質問やコメントなどの平常点も加味する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	メディア・コミュニケーション表現ⅠA	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	①映像を分解し、分析してみることによって、映像の構成を理解する。 ②映像を制作してみることによって、映像の意味を理解する。 ③Adobeのプレミアを練習する。		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	授業貢献度50%、発表20%、制作30%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	インドネシアの政治・経済Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要> 本講義では、現代インドネシア政治経済を理解し、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成することを目指す。</p> <p><授業の目的と到達目標> インドネシアにおける政治あるいは民主主義の実際が如何なるものか理解することを目的とする。そのために、独立後インドネシアの政治体制を概観した上で、1998年以降の民主化の過程を検討する。軍の力を背景とした権威主義体制から、どのように大統領権限を制限し、自由な選挙を実現したか、そしてその結果および実際はどのようなものだったのかが焦点となる。</p> <p><必要な準備学習> 予習：次回授業用の資料を読み、不明な用語を予習。（2時間） 復習：資料やノートを見返し、授業で得た知識や理解した内容の確認。（2時間）</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	自然科学への招待A	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜 4時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	302
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>「物質・原子・原子核・素粒子・・・（ミクロの世界）」</p> <p>自然の世界は、大きさのスケールでいえば極微の素粒子から極大の宇宙まで広がり、時間のスケールでいえば宇宙の誕生からその死まで続いています。自然科学は、これら自然に存在するものすべてを対象とし、それらの構造や仕組み、変化の仕方を調べ、できるだけ簡単な法則でしかも統一的に理解しようとする学問です。</p>		
到達目標	<p>① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につける。</p> <p>② 身近なものごと・現象の理学的理解ができるようになる。</p> <p>③ 公務員試験「自然科学」分野の準備となる。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>以下の内容で進める予定です。</p> <p>(履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。)</p> <p>第1回 自然界のスケール 第2回 数値の表し方 第3回 単位 第4回 光と色 第5回 虹と青空 第6回 電磁波 第7回 音 第8回 運動・力・重力 第9回 物質と分子・原子 第10回 固体・液体・気体 第11回 元素の周期表 第12回 原子の構造 第13回 原子核 第14回 核分裂と核融合、放射線 第15回 素粒子</p> <p>講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。</p>		

評価方法 ※	<p>授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。</p> <p>毎授業時に記入してもらう質問票をもとに、次回の授業時に追加説明を行います。授業であいまいだった点の確認に役立ててください。</p>
評価基準	
テキスト	指定なし。毎授業時に資料プリントを配布します。
注意事項	<p>[予習] 次回のテーマについて、中学・高校の理科の教科書を読んでくるとよいでしょう。（約60分）</p> <p>[復習] 分からなかったところや関心を持ったところについて調べておきましょう。毎回の授業のポイントが理解できているか、自分の言葉で書きかだしてみるとよいでしょう。（約180分）</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cdbl=1520

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	開発経済学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火-4
キャンパス※		教室※	208
学修分野			
授業目的 ※	<p>開発経済学は、発展途上国に対する望ましい経済発展の処方箋の提供を目的とした政策志向性の高い経済学の一分野である。取り扱われるテーマは、貧困、人口転換、少子高齢化、農業・工業化、貿易・海外直接投資、政府の役割、政府開発援助、アジア経済など多岐にわたる。</p> <p>本講義では、貧困問題、人口問題、農業・工業化政策、人工知能（AI）と仕事、AIのビジネスでの活用事例、デジタルトランスフォーメーション、持続可能な開発目標（SDGs）などのテーマを主に学習する。なお、履修者が途上国の抱える現実的な課題を理解できるように、メディアで注目されるトピックもできる限り多く紹介する。</p> <p>教員は、2012年～2017年（独）国際協力機構（JICA）の研究部門に勤務経歴あり。国際協力の実務経験に基づいて、日本を含むアジアを中心としたグローバル経済について専門的な知識と経験を交えた講義を展開する。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に経済学の専門知識、思考力・判断力および主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に資する科目である。</p>		
到達目標	<p>発展途上国が抱える様々な開発課題とその処方箋を理解するために必要な開発経済学の基礎的な知識を習得する。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第 1 回 ガイダンス（授業の目的・内容・教科書・評価方法など）</p> <p>第 2 回 開発経済学とは</p> <p>第 3 回 収穫逓減の法則とは</p> <p>第 4 回 貧困のメカニズム：マルサスの罠</p> <p>第 5 回 人口爆発と人口転換</p> <p>第 6 回 少子高齢化</p> <p>第 7 回 緑の革命：農業の技術進歩は如何にしておこるか</p> <p>第 8 回 工業発展（1）開発途上国の工業化が如何にして開始されたか</p> <p>第 9 回 工業発展（2）農工2部門モデルによる説明</p> <p>第10回 工業発展（3）圧縮型工業発展と後発性の利益</p> <p>第11回 農村・都市間労働移動：ハリス＝トダロモデル</p> <p>第12回 人工知能（AI）と仕事</p> <p>第13回 AI、機械学習、ディープラーニングの活用事例</p> <p>第14回 デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進とSociety5.0</p> <p>第15回 持続可能な開発目標（SDGs）とビジネス：社会貢献と開発</p>		

評価方法 ※	<p>中間試験（35%）、定期試験（35%）、課題提出状況（30%）により成績を評価する。試験や課題に対しては、授業内で全員にフィードバックする。</p> <p>教室内での私語やイヤホン（ワイヤレス含む）の使用は厳禁とし、このルールに従うことのできない履修者は平常点の減点対象とする。度重なる通告にも関わらず、改善が見られない場合は、定期試験の受験資格を与えない。</p>
評価基準	
テキスト	渡辺利夫著 2010『開発経済学入門（第3版）』（東洋経済新報社）
注意事項	<p>開発経済学の学習には、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な知識が必要であるので、予習・復習時間を利用して、しっかりと学習すること。履修者には途上国を含むグローバルな経済の動きに関心をもつことを期待する。</p> <p>開発経済学Ⅰ（前期）と開発経済学Ⅱ（後期）は、関連性が大変強いので可能ならば両方の講義を履修することが望ましい。ただし、扱うテーマは違うため、どちらか一方の履修も可能である。</p>
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉
科目名 ※	経営組織論	単位数 ※	
開講学期※	2022年度 前学期	曜日・時限 ※	火曜4限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的 ※	経営組織論の考え方を使得、組織形態の違いによる特徴（強みや弱み）を理解できるようになること。組織が抱える課題に対し、どのように対応しているか理解できるようになること。将来、自身がどのような組織を選ぶべきか考えるきっかけになること。		
到達目標	講義内で取扱った経営組織論の基本概念を適切な事例をあげて説明ができること。またそれらの知識を用いて、組織に対する評価を行うことができること。		
授業内容 授業形態 ※	<p>経営組織論の基本的な概念を実在する企業やチーム、団体などを様々な形態の組織を題材に解説します。学生の実感やアンケートをもとに講義を進める双方向授業を行います。</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性がある。</p> <p>【対面授業】 講義形式を中心とした授業のなかに、グループワークやアクティブラーニングの手法を取り入れる。講義ではディスカッションを行うなどして、具体的かつ双方向の授業形態をめざす。</p> <p>【遠隔授業】 配信授業動画に関して、学生の質問や意見を求める。 それら意見や見解を受講生に共有することで、双方向授業（アクティブラーニング）とする。</p>		
評価方法 ※	知識の暗記ではなく、リアクションペーパー、レポートから各自がどのように考えたかを総合的に判断する。		
評価基準	平常点（リアクションペーパー、アンケート、授業内での発言）40点、中間評価（試験orレポート）30点、期末評価（試験orレポート）30点の合計100点。		
テキスト	<p>※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。</p> <p>(参考図書) 高雄義明著（著）「はじめての経営組織論」(有斐閣ストゥディア)、2019年 伊藤秀史、小林創、宮原泰之（著）「組織の経済学」(有斐閣)、2019年</p>		
注意事項	試験は資料の持ち込み可とするので、授業で取り上げた内容のメモをとることを推奨します。		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	政治社会と行政問題 A	単位数 ※	2
開講学期 ※	2022年度 前学期	曜日・時限 ※	火曜4限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	15-301
学修分野			
授業目的 ※	<p>行政に政治がどう関わっていくのかについて講義を進めます。</p> <p>すなわち、市長と市役所職員から構成される行政と市議会の力の結集により、市が成長し、豊かな市民生活が確保されていくものであります。そこで、</p> <p>①市役所の各部署は、様々な行政課題をどのようなプロセスで解決しているのか。</p> <p>②そこに市長と議会はどのように絡んでいるのか。</p> <p>③市長と市役所職員と議会の三者の思惑は常に一致しているのか。</p> <p>これらについて、千葉市をケーススタディとして様々な行政課題毎に三者の関わりを考察します。</p>		
到達目標	<p>①行政の業務内容を知る。②行政と議会のバランスを理解する。③政治と行政の違いの線引きを理解する。④政治と行政の仕事としての魅力を考察する。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>行政の各部門単位に、主要な行政テーマを取り上げ、業務プロセスを解説するとともに、市長と市役所職員と議会の三者の関係について講義します。</p> <p>授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。</p> <p>【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。</p> <p>【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。</p>		
評価方法 ※	<p>授業内容に関するリアクションペーパー、毎回求める課題提出及び15回目の授業中に行う課題レポートにより評価します。</p>		
評価基準	<p>授業内容に関するリアクションペーパー20点、課題30点、15回目の課題レポート50点の合計100点満点とします。</p>		
テキスト	<p>※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。</p>		
注意事項	<p>事前学習と事後学習をしっかりと行いましょう。</p> <p>テレビ、新聞、インターネット等を通じて、行政と政治に関わる情報を収集してみましょう。</p>		

授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp
--------	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	文化人類学研究ⅠC	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・4時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義では、生と死を文化人類学的視点から考える。日本をはじめとする世界のさまざまな地域の生殖、親子関係、死、死後の捉え方を学ぶ。特に今日の医療技術の発展によって生じている生死をめぐる諸問題を取り上げる。 医療人類学的視点から生殖に関する概念を理解する。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	リアクションペーパー40%、論述10%、レポート（本文3,000字以上）50%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	認知発達と英語教育A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・4時限 木・4時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講座は、ことばの習得において重要な役割を担う乳幼児期・児童期に、「子どもの認知と言語がどのように発達するか」を学ぶことを目的としている。授業では、認知と言語の発達に関する種々の側面（概念の形成、語彙の発達、脳の機能と発達、文法の理解の発達、発達障害、心の理論など）を科学的な研究に基づいて学ぶ。さらにPiagetの発達理論やVygotskyの社会文化理論などの諸理論より、学習がどのように成立するか学ぶ。</p> <p>本講座において学生は、以上の認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	期末テスト レポート 宿題	40% 40% 20%	
評価基準			

テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	スペイン語音声学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・4時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本授業では、まず、スペイン語の調音音声学を学ぶ。日本語の調音器官、調音点、及び調音法の用語も学ぶ。英語、日本語の音の違いも指摘する。次に、スペイン語の単語は次の音と一緒に発音されることが多いので（いわゆるリエゾンという現象）、これに慣れるためにスペイン語会話を聞き取って書く、即ちディクテーション（dictado; dictation）を行う。</p> <p>スペイン語音声学に関する豊かな知識と高度の運用能力を身につけるとともに、スペイン語のさまざまな音声事象についての理解を深めることを目指す。こうしたスペイン語音声学の基本的知識は、スペイン語教育にも欠かすことができないだろう。</p> <p><必要な準備学習（必要となる時間）> 予習：テキストの予習。次回扱うページを読み、関連する用語を百科事典や言語学辞典などで調べ、理解が難しい部分は問題点を整理して質問する。（2時間） 復習：テキストの復習。授業で得た知識や理解した内容を配布資料やその他参考書を利用して理解を深める。ディクテーションを見返して、間違えた部分を音声学の知見から分析する。（2時間）</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	<p>授業活動、リアクションペーパー…20%</p> <p>演習課題…40%</p> <p>ディクテーション…40%</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	社会言語学Ⅰ	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火4・木2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義では、社会言語学という学問領域が扱うさまざまなテーマについて日本語で講義する。</p> <p>前半では、言語のバリエーション（変異）の諸相を、地域、社会階層、エスニシティ、性、年齢などの社会的要因を切り口にして取り上げる。特に「世界の英語」に焦点を当て、「神田外語大学×東京外国語大学英語モジュール」を使って世界の多様な英語について解説する。授業では、自然会話や朗読の録音、映画、音楽などを視聴して、さまざまな言語のバリエーションに親しむ。また、言語変化のメカニズムについて解説する。</p> <p>後半では、言語の規範、言語差別、女性と言語、役割語、言語接触、方言（危機言語）の復活、方言娯楽などを取り上げる。最後に言語政策に焦点を当て、日本語の言語実体計画(新常用漢字表の成立、外来語の言い換えなど)、カナダの公用語政策とケベック州のフランス語化政策について解説する。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	<p>授業への参加・貢献度（質問に対する回答、発言など）、数回のリアクションペーパー、短い課題：60%</p> <p>期末テスト：40%</p> <p>※期末テストは、対面で行う。持ち込み不可。</p>		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認してください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	国際機構論 I B	単位数 ※	2
開講学期 ※	前期	曜日・時限 ※	火・4時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業概要> 「国際機構」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか？ 第一次世界大戦後に作られた国際連盟や、第二次世界大戦後に誕生した国際連合（国連）は、その中心的な存在といえる。20世紀以降、世界には多くの国際機構が作られ、それらの国際機構を通じた国際協力が著しく発展してきた。今日のグローバル化が進化する世界において、国際機構に期待される役割は何なのだろうか。</p> <p>この授業では、国際機関の役割と今日における意義および課題に着目しつつ、国際機構が設立した背景、具体的なマンデート、組織体系など、国際機構の構造について包括的に学んでいく。また、国連が実際に作成している公式の学習教材を用いて、国連が国際社会に対して、国際協力を促していくうえでどのような発信をしているのかについて、実践的に学ぶほか、国際機関の役割に関するディスカッションの機会を設けていく。そのため、本授業では、学生たちの積極的な参加が求められる。</p> <p><授業形態> 基本的には、講義形式で行う。授業内で一部アクティブラーニングを取り入れる。具体的には、国際機構の果たす役割や成り立ち、諸課題について、グループでのディスカッションなどを行う。また、一部の内容で、国連が実際に公開している学習プログラムを導入し、それに応じたディスカッションの機会を設けるなど、学生の積極的参加が求められる。</p> <p>なお、授業計画および実施形態については授業の展開および社会情勢によって、変更になることがある。</p> <p><必要な準備学習とその時間> ・予習時間（事前配布資料の内容確認、授業で使用する資料の読解、課題についての事前学習など）：120分 ・復習時間（講義内容の復習、授業で扱った事例の内容確認・理解、国連の学習プログラムの実践、小レポートの作成、ディスカッションのふりかえりなど）：120分</p>		

到達目標	<p>この科目は、学位授与の方針（DP）に定める、学生が本学における学修と経験を通じて身につける知識や能力のうち、「深い専門知識の習得」および「国際社会の一員として世界に貢献しうる人材になること」という目的に該当する。具体的には、以下の到達目標を設定する。</p> <p>(1) 国際機構の定義、マンデート、組織構造などの基本的な知識を習得し、国際社会における役割について理解することができる。</p> <p>(2) 国際機構はなぜ存在しているのか、また今日のグローバル社会においてどのような役割を果たし、どのような課題に直面しているのかについて理解し、批判的に考察することができる。</p> <p>(3) 国際機構が目指すべきグローバル社会の在り方について、自分の言葉で意見を述べるができるとともに、他者の考え方についても関心を持ち、理解することができる。</p> <p>(4) 授業内で紹介する国連の提供するオンライン学習プログラムを修了し、公式認定証を取得する。</p>
授業内容	
授業形態	対面
評価方法 ※	<p>通常評価（A+～F）を基本とする</p> <p>40%: 平常点（授業及びディスカッションへの貢献、リアクションペーパーの提出状況）</p> <p>60%: 学期末プレゼンテーションおよび課題</p>
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	メディア・コミュニケーション表現 I B	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・4時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	①映像を分解し、分析してみることによって、映像の構成を理解する。 ②映像を制作してみることによって、映像の意味を理解する。 ③Adobeのpremiereの練習		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	授業貢献度50%、発表20%、制作30%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	教育学入門	単位数 ※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火曜 5限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	大講義室
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道徳心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理や学校教育に関して、理解し基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができるようになる。</p> <p>3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたりする。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 講義概要の説明：「教育学入門」における学習の目的、授業計画、授業の進め方、授業外の学修、評価方法、グループ・ワークなど（目標1）</p> <p>第2回 人間の成長・発達と教育：「ヒトは教育によって人になる」といわれるが、なぜ人間には教育が必要なのかを学ぶ。（目標1）</p> <p>第3回 発達の理論①：「子どもの発達段階」、ピアジェ（目標1）</p> <p>第4回 発達の理論②：エリクソン（目標1）</p> <p>第5回 教育目的：学校教育の狙い、目指す人間像。（目標1）</p> <p>第6回 教育制度①：教育に関する法律（目標1・2・3）</p> <p>第7回 教育制度②：日本の学校制度（目標1・2・3）</p> <p>第8回 教育課程①：現代教科の成立（目標1・2・3）</p> <p>第9回 教育課程②：問題解決学習（目標1・2・3）</p> <p>第10回 教育政策の動向：学習指導要領の改訂の流れを学ぶ。（目標1・2・3）</p> <p>第11回 教育とジェンダー：隠れたカリキュラム、役割取得と社会化とは何か。（目標1・2・3）</p> <p>第12回 保育とジェンダー：保育分野にみるジェンダーバイアスとは何か。（目標1・2・3）</p> <p>第13回 現代日本の教育課題：（1）体罰、不登校、いじめ、逸脱（目標1・2・3）</p> <p>第14回 現代日本の教育課題：（2）多文化共生と教育（目標1・2・3）</p> <p>第15回 現代日本の教育課題：（3）ESD（education for sustainable development）持続可能な開発のための教育（目標1・2・3）</p>		

評価方法 ※	授業への取り組み（発言、発表）やリアクションシート、各回の予習復習課題（30%）＋定期試験（70%）の成績を総合して評価する。
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理や家庭・学校・地域社会の教育役割・機能に関して、理解し基礎的な知識を習得できたか。 2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができたか。 3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたりしたか。
テキスト	<p>書籍名 『教育の基礎と展開（第2版）－豊かな教育・保育を目指して－』</p> <p>著書名 高野良子・武内清編 著</p> <p>出版社 学文社</p> <p>価 格 2000円＋税</p> <p>ISBN・ISSN 978-4-7620-2806</p>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚的・主体的・能動的な受講が望まれる。 ・講義だけでなく、グループ・ディスカッションや発表などの活動を組み込み、双方向・参加型授業につとめる。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	英語学概論C	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>英語は一言語としてどのような特質を備えているのか、様々な角度から考えられるようになることを目標とする。英語は語彙、発音、文法、意味などに関してどのような仕組みや規則を持っているのかを学んでいく。</p> <p>現代英語についてこのような基本事項を学習した後、英語の語彙が歴史と共にどのように増大したか、また現代英語の膨大な語彙がどのような層を成しているのかを観察する。</p> <p>ことばの仕組みを学ぶ足掛かりとして、日本語に焦点を当てることで、学生にとって分かり易く有用である場合もあるので、主に日本語のデータを扱う回もある。なお、授業の進捗状況により、スケジュール等が適宜変更されることもある。授業は講義形式で行う。内容理解を確認する問題の答え合わせなどは基本的に「グループワーク」で行い、その後クラス全体で確認する。座席は指定となる。（履修者が決定した後、座席を指定する。）授業・試験は対面形式で教室で行われる。ただし、ゴールデンウィークの期間は対面授業が行われないため、オンラインの授業となる。教材として、プリントを配布する。「学生便覧」に記されている通り、全ての講義科目は授業時間の倍の時間の自宅学習が必要とされる。「英語学概論」も、毎回の授業（90分）について、180分（＝3時間）の自宅学習が必要である。「英語学概論」では、高校までに学習してこなかったような「概念」を扱うこともあり、また抽象的な事象も扱われる。毎回の授業の後に復習して、その回の授業の内容を自分の頭の中に定着させておくことが、次の授業を理解するために必須のステップである。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		

評価方法 ※	<p>【成績評価】</p> <p>数回の試験により評価を行う（90%）。授業への貢献度も考慮する（10%）。全回出席を当然とし、欠席・早退・遅刻については『減点』し、《マイナス評価》を行う。</p> <p>試験未受験の場合、また、試験の点数が一定の基準に満たない場合は、単位が発行されない。</p> <p>また無断欠席が3回以上ある場合、単位の発行は行われぬ。</p>
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代英文法C	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・5時限 金・5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>現代英語の文法を、日本語のそれと比較対照しながら概観する。断片的な英文法の知識を積み重ねるのではなく、「ことばの仕組み」という観点から、種々の言語現象を眺めることにより、その特徴を理解し、現代英語の文法を体系的に把握することを目標とする。一見すると多種多様な言語現象の背後には、興味深い規則性が潜んでいることを理解してもらいたい。文法というと無味乾燥で、ただ暗記するだけのものと思っている人もいるかもしれないが、この授業を通してこれまでは気付かなかった規則性について学ぶことで、文法について考えることの面白さを知ってもらいたい。同時に、日本語についても目を向け、それを英文法に活用できるようにする。</p> <p><必要な学修時間></p> <p>講義1回に対し、およそ予習に2時間、復習及び宿題に2時間が必要となる。</p> <p>予習： 講義予定箇所の予習（1.5時間）</p> <p>復習： 講義内容の理解し、用語や新しい概念を覚える。（1時間） 練習問題を解く（1時間） 補足資料などを読む。（0.5時間）</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	平常点（小テスト、課題）と中間試験と期末試験によって評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 平常点		

評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	第二言語習得研究A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・5時限 木・5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要> 第二言語習得研究は、人が母語以外の言語をいかにして学ぶのかを探求する研究分野である。言語学と心理学のみならず、母語習得、脳科学、教育学、社会学、人類学の知見を取り入れた学際的分野と言える。本講義では、これまでに行われた主な研究を概観し、個人差を生み出だす可能性のある様々な要因を考察する。また、外国語学習成功者の事例を考察し、高度外国語運用能力を身につけるための学習方略の使用を考察する。</p> <p><授業形態> 第二言語習得研究でその重要性が言われている理論を実践するため、協調・協働を重視する。毎回の授業で、前回授業の内容の復習ディスカッションから始め、そこから新しい内容の講義を始める。リーディングの内容は、グループで担当箇所を決め、他のグループに説明するジグゾーリーディングを行う。</p> <p><必要な時間> 予習：教科書や指定された論文を読む（2時間） 復習：毎回の授業について内省文を書く、主要概念の整理（2時間）</p>		
到達目標	<p><授業の目的と到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い言語運用能力とはどのようなものか、またそうした能力はどのように習得されるのかといった問いに対して科学的な説明ができるようになること。 ・様々な理論や概念を用いて、受講者が自らの言語学習経験を内省し、第二言語学習を多面的且つ複眼的に考察できる。 ・自身の学習経験を振り返り、第二言語習得理論や概念を用いて意味付けができる。 		
授業内容			

授業形態	対面
評価方法 ※	授業内省文（15%）、中間試験（30%）、ワークシート（15%）、復習発表（10%）
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	児童英語指導法 (Reading & Writing) A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・5時限☒・5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>このクラスでは、歌や体、絵本を使って、子どもに英語の読み書きを教える方法を実践的に学ぶ。まずは音素認識能力を高める活動、そしてアルファベットの文字と音を一致させるフォニックスの基礎とその指導の方法を学ぶ。</p> <p>絵本を活用した活動では、子どもの心の発達や認知能力を育成することを目的とした読み聞かせ Read aloud、基礎的な語や文の読み方の指導を目的としたShared readingの方法を実践を通して学ぶ。さらに、絵本の内容を理科や社会などの他教科と連携させたり、発展させたりしながら行う読み書きの指導方法を学ぶ。</p> <p>絵本を読み聞かせるにあたり、読み手は正確に英語を発音することが子どもの言語習得に重要である。従って、履修者には徹底的な発音訓練を行い、また子どもへの発音指導の方法も扱う。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	モデルレッスン (実技) 30%、レッスンプラン 40%、宿題 30%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	日本語学ⅡA	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>日本語教師を目指すものが必ず知っておかなければならない日本語文法の基礎について、できるだけ網羅的に勉強してもらう。テキストの内、自習でも内容把握が困難でないと思われる部分については、自習項目とし、小テストで確認する。また、授業で取り上げる項目についても、予習してくることを前提とする。半期完結のコースで項目のすべてを終えるためには受講者の積極的な学習への取り組みが不可欠である。また、必要に応じて、生成文法や意味論といった教科書とは違った観点からより一般的に文法を捉える方法を講義する。以下の内容における実施回は、実施週と読み替えること。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	小テスト（40％）、レポート（10％）、期末テスト（50％）		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	タイの宗教・社会	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火・5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><授業の概要> 本授業では、タイ仏教徒の宗教実践について、「中心と周辺」をテーマに学習します。タイの公的な宗教制度からは、「正しい」仏教や信仰の姿を読み取ることができます。しかし、その「正しさ」は、誰の手で、どのような背景から生まれたのでしょうか。そして、その「正しさ」に必ずしも同調することなく息づいている民衆の信仰や宗教実践とは何でしょうか。こうした宗教をめぐる制度や権威の問題を考えながら、タイ多数派の宗教について理解を深めます。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態	対面		
評価方法 ※	1) リアクションペーパー： 10% 2) 課題： 30% 3) 期末テスト： 30% 4) レポート： 30% 5) 欠席は1回につき減点4%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項